

2 環境づくり

(1) 異文化に触れる校内掲示

児童にとって身近に体験、経験した行事や活動を掲示する時に、これまでは日本語で掲示を行ってきた。それらを英語で示すことで活動と英語の表現を視覚的に捉えることができ、英語をより身近に感じることができるのではないかと考えた。それぞれの行事や活動の後、掲示された写真を楽しそうに見ながら自分や友達を探している様子が見られた。



< 学校行事の紹介 >

(2) 他教科との関連や学びの姿勢

学習発表会では、1年生が「大きなかぶ」の英語劇に取り組み、日頃の学習の成果を保護者や地域に知ってもらうことができた。1年生にとっては、英語劇の取組を通して英語活動への自信や意欲を更に高めることができたし、他の学年の児童にとっても身近な物語を英語劇にすることで英語に親しむことができ、英語の学習に意欲的に参加する様子が見られた。



< 他教科との関連 >

(3) 特別活動における主体性

6年生が中心になり全校でハロウィンパーティーを行った。ハロウィンのことについて ALT から話をしてもらった後、縦割り班対抗のゲームや校内につくったお化け屋敷を体験するなど楽しむことができた。その後学級でハロウィンの取組をしたところもあり、他国の文化であるハロウィンを学校全体で体験し、楽しんで表現することができた。



< 特別活動における主体性 >

(4) 保護者や地域への啓発

児童の学習や取組の様子については、学校のホームページ等で保護者や地域へ発信している。それを観られた方々から感想等が学校に寄せられている。昨年に引き続き、全校で外国語活動の授業参観日を設けて保護者への啓発に取り組んだ。低学年の児童が英語を使って学習している様子を参観された保護者の方々から外国語活動の必要性も聞くことができた。



< 外国語活動の授業参観 >